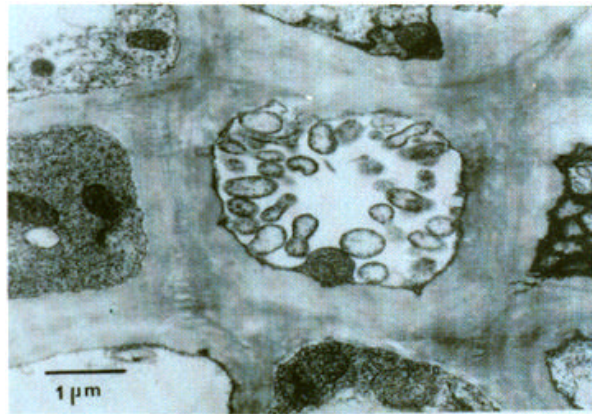


<シュンギクてんぐ巢病>



てんぐ巢症状



組織内のMLO
(農林水産省農業研究センター加藤昭輔氏提供)

<シュンギクてんぐ巢病>

病原：マイコプラズマ様微生物 Mycoplasma-like-organism(MLO)

1. 症 状

株全体が黄化、萎縮し、側芽の伸長は旺盛で叢生状（てんぐ巢状）となる。根の発育は悪く、下葉から枯れあがり、やがて枯死する。幼苗期に感染すると被害が大きい。

2. 生 態

病原は宿主の篩管内および篩部柔組織の細胞室内に存在する。ヒメフタテンヨコバイにより媒介される。発病株を吸汁したヒメフタテンヨコバイの幼虫や成虫は、25日程度の潜伏期間を経て、保毒虫となり、本病を永続的に伝搬する。病原はタマネギ萎黄病、ミンマサイコ萎黄病と同一である。

3. 防 除

1) 発病株は直ちに除去する。 2) 周囲の雑草を除去する。

4. 記 事

本病は1989年10月町田市で発生した。